

岐阜県公共図書館協議会活動報告

本協議会では、県内の加盟館が連携し、図書館活動振興のための各種事業を行っている。

8月26日に公共図書館長トップセミナーを開催した。テーマ案は次のとおり。

テーマ1：「岐阜県こどもの読書活動推進計画（第4次）施策説明」（資料配布のみ）

テーマ2：「国立国会図書館デジタル化資料送信サービスの活用方法」

講師：鳥澤孝之氏（国立国会図書館関西館）

テーマ3：「読書バリアフリー法と図書館サービス」

講師：野口武悟氏（専修大学教授）

加盟館の館長及び職員24名が参加し、国立国会図書館デジタル化資料送信サービス、読書バリアフリー法と基本計画の概要や特色などについて学んだ。

10月16日には職員研究集会を開催し、「やさしい日本語」をテーマに、仲潔氏（岐阜大学教育学部准教授）から加盟館の職員24名が、コミュニケーションにおける「ことば」の働きや「やさしい日本語」の基本ルールなどについて学び、わかりやすい言葉遣いなどについて考える機会となった。

加盟館共通テーマ資料展示として昨年度に引き続き「がん予防啓発」をテーマに関連図書を展示した。また生誕120周年、ビザ発給80周年を記念して「杉原千畝」のほか、「多文化共生」についても展示を行った。（「がん予防啓発」は9月、「杉原千畝」は11月に各館で一斉展示。「多文化共生」は時期を定めず実施。）

●県内公共図書館の動向

5月に揖斐川町立いびがわ図書館の新館が移転開館した。神戸町は6月に開館25周年パネル展、蛭川済美図書館は開館110周年を記念して、10月に「110

年のあゆみ展」をそれぞれ開催した。

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、4月から5月にかけて多くの館が臨時休館となった。休館期間中に、池田町は予約資料の郵送貸出、可児市は未就学児、小中学生への配送貸出、郡上市は小学生以下を対象に家読セットの貸出を行った。可児市、土岐市は公式YouTubeで読み聞かせ動画を配信、高山市は小学生向けのブックトークをケーブルテレビで放映した。SNSを活用し、美濃加茂市は「本でしりとり」、多治見市は図書館の様子やおすすめ本の紹介、瑞浪市は本を紹介する「おうちで図書館」、応募者にぴったりの本を探す「本のソムリエ」を行った。

新たな取り組みとしては、岐阜市は7月に「岐阜で楽しく豊かに暮らしていくためのヒントとなる本」を集めた特集本棚「シビックプライド・ライブラリー」を設置した。電子書籍については、関市、大垣市、岐阜県に続き、10月に各務原市が、3月に岐阜市がそれぞれ導入した。また、大垣市は読書メーターと連携したパソコンやスマホで読書記録を残せるサービスを開始した。このほか、瑞穂市、安八町、神戸町、恵那市、瑞浪市、高山市、飛騨市、下呂市は図書館システムの更新、瑞穂市、瑞浪市、恵那市、高山市は図書館ホームページのリニューアルを行った。

●岐阜県図書館について

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、3月から6月にかけてサービスの休止、臨時休館の措置をとった。臨時休館中の4月には、「在宅勤務応援ページ」や地図や岐阜県の学習コンテンツ等を紹介した「おうちで学習応援ページ」を公開した。10月には「バリアフリーコーナー」開設した。

（岐阜県公共図書館協議会事務局）

岐阜県大学図書館協議会活動報告

令和2年度、岐阜県大学図書館協議会として次の活動を行った。

○運営委員会（7月8日〈金〉書面表決）

○総会（7月29日〈木〉書面表決）

いずれの会議も、コロナ禍を踏まえ集会形式での開催を取りやめ、電子メールを利用した書面表決の形式で開催した。

総会では、会務報告の後、以下の項目について協議した。

（1）令和元年度決算（案）について

（2）研修会（講演会）および会場館輪番について

例年、総会と同日に会場館主催の研修会（講演会）を実施しているため、オンライン形式での実施も視野に検討を行ったが、コロナ禍の授業運営等の影響により企画・実施が困難であったため、令和2年度の講演会は中止とし、令和3年度に改めて今年度の会場館が企画・実施することとした。

（3）令和2年度予算（案）について

（4）情報交換（共有）

事前に各加盟館から募集した情報交換事項と、それらへ対する各加盟館の取組をとりまとめた資料を共有した。

- ・新型コロナウイルス感染症への対応について
- ・電子書籍について
- ・リポジトリの担当者について
- ・小学校 中学校教師用指導書について

令和2年度はコロナ禍により、従来の様々な活動にこれまでに無い対応が求められることとなった。

例年、総会の情報交換では、予め各加盟館から寄せられた取組をとりまとめた資料を開催当日に提示・共有しているが、新型コロナウイルス感染症への対応は即応的にとる必要があったため、開催日に関わらず、各加盟館の対応が更新される

都度、電子メールで情報共有を行った。

各加盟館は概ね、4月上旬から5月末・6月まで、それぞれの事情を踏まえ臨時休館あるいは教職員のみを対象とした限定開館等を行い、感染の拡大防止を図った。

その後も含めた継続的な取組としては、マスク着用の義務化、消毒液の設置、カウンターでの飛沫防止措置、閲覧席の間引き、個室の利用休止、職員による館内消毒作業、換気の実施、利用対象者や開館時間の制限等が挙げられる。

本協議会では、隔年の研修会（視察研修会）として、図書館に関係する先進事例の視察や大会への参加を行っており、令和3年度はその実施年度にあたる。

現時点では、従前のような集会形式での実施の可否が不透明であるが、この一年で広く浸透したオンラインの通信ツールを活用することも選択肢として、実施に向けて検討を進めていくほか、大学図書館の振興のために、今後も相互に連携を深める活動に積極的に取り組んでいきたい。

（岐阜県大学図書館協議会事務局）

岐阜県学校図書館協議会活動報告

岐阜県学校図書館協議会では、例年学校図書館の充実発展を図るための研究会や研修会と、児童生徒の読書の振興を図るための各種コンクールを行ってきた。しかし、今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための約2か月間の臨時休校、新しい生活様式に応じた学校生活となり、例年とは違った状況であった。そんな中での事業の遂行であった。

☆研究会、研修会

（1）第1回研究会及び代表者会（5月27日 岐阜県図書館）

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、会

の開催を中止する。各郡市の理事・代表者へ6月に文書を送付して、文書提案の形をとった。

(2) 夏季ゼミ

コロナ感染症拡大防止のため、中止する。

(3) 第2回研究会及び代表者会(2月19日岐阜県総合教育センター)

コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止する。各郡市の理事・代表者へ2月中旬に文書を送付して、文書提案の形をとった。

☆各種コンクール

(1) 第52回図書館だよりコンクール(高等学校)

(2) 第66回読書感想文コンクール(小中学校、高等学校)

(3) 第32回読書感想画コンクール(小中学校、高等学校)

(4) 第41回図書館利用記録コンクール(小学校、中学校)

本年度は、学校図書館協議会の事業に関する質問が当会に多く寄せられた。しかし、どの事業も、何とか開催するという形で始めた。夏休みが短期化したこともあり、感想文コンクールへの応募数は減った。しかし、寄せられた作品の中から審査を行い、全国読書感想文コンクールの課題図書部門で「全国図書館協議会賞」を小学校高学年と高校の児童・生徒が受賞した。他の事業も、応募は減ったが、それぞれの力を発揮する力作がコンクールに届いた。その作品を、コロナウイルス感染拡大防止対策を講じて、審査会を実施し、多くの受賞者が誕生した。

岐阜県独自のコンクールである、「図書館利用記録コンクール」では、複数の図書資料やインターネットを利用した調べ学習の過程が綴られ、読む人の胸をうつような感動や発見のある作品が集まっている。今後もこうした事業を通して、読書活動等がますます豊かに発展することを願っている。

(岐阜県学校図書館協議会事務局)

●図書館活動研究大会

視覚障がい者への図書館サービス

(11月19日 岐阜県図書館 28人参加)

一昨年、読書バリアフリー法(視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律)が公布・施行されたことを受け、研修テーマを「視覚障がい者への図書館サービス」とし、講師には、視覚障がい者の立場から情報アクセシビリティを研究してきた植村要氏を迎えて実施を計画した。

当日の講演では、関連法(著作権法、読書バリアフリー法)や読書バリアフリー法基本計画についての解説のほか、氏が本年4月に入館した国立国会図書館における障害者サービスについても説明を受けた。参加者からは「詳しい法律の説明、国会図書館のサービス例、ともに分かりやすく大変勉強になりました」「NDLの取組み、バリアフリー法についての理解が深まりました」等、大変有意義であったとの声が多く寄せられ、各図書館における障がい者への対応について考える機会とすることができた。

なお、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じ、主会場での対面による参加のほか、所属する図書館からオンラインで参加する方法も準備した(Zoomを使用)。初めての試みで事務局が不慣れであったため、音声聞き取りにくくオンライン参加者の満足度は低かったが、アンケートの自由記述では、今後もオンライン開催を希望する意見が寄せられた。

●学校図書館職員対象研修会

探究学習と学校図書館

(8月 オンライン 97人参加)

昨年度に引き続き、岐阜県総合教育センターとの共催で研修を計画し、大正大学の稲井達也氏に岐阜県図書館までお越しいただいて講義をしていただく予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、講義動画の配信による研修に変更

した。講義動画による実施は初めてのことであったが、普段は参加困難な遠方の学校図書館および公共図書館の職員が多数参加した。

講義動画では、新学習指導要領に基づいた学校図書館の役割や機能、学校司書に求められる知識や技能等について、具体的な事例を多数交えて詳しく解説していただいた。また、講義内容に関する演習問題が随所に織り交ぜられており、受講者が自身の所属での状況等を考える良い機会となった。

●岐阜県図書館・岐阜大学図書館研修会

索引の知識と技術

(10月29日 岐阜大学 29名参加)

例年、岐阜県図書館、岐阜大学図書館と共催で行っている研修を今年度も共催で行うこととし、フリーランス・ライブラリアンの藤田節子氏を講師にお招きして開催した。

講師には岐阜までお越しいただいて、索引の種類や役割、図書館員として索引を利用する際のコツなどについて、実例や演習問題を交えてご講演いただいた。

参加者のアンケートからは、「レファレンスサービスにおける探し方の技術について、改めて見直す機会となった」「検索語の見つけ方のポイントを知ることができた」等、大変有意義だったという声が多く寄せられた。

●その他

・岐阜県図書館協会 理事会

6月12日（書面表決）

・相互協力部会

書面による情報交換等を実施

・資料発行 「会報」(49号) 令和3年3月

(岐阜県図書館協会事務局)